

# 企業における食品免疫機能評価の取り組み

松井保公

小林製薬株式会社 中央研究所

小林製薬では食品成分と免疫機能の関係について、約20年基礎から臨床に至るまで研究を継続してきた。免疫機能は人が日常生活を営む上で欠かせない機能であり、食事や食品成分とも密接に関わることがよく知られている。一方で、免疫機能は非常に複雑で、過去20年においても重要な知見がいくつも発見されるなど、一定の評価手法が通用しない困難な領域とも言える。このような背景の中で、企業としてどのような研究アプローチを用いて、どのような研究を進めて来たかについて、ご紹介したい。

## 食品表示制度について

はじめに、現在の食品表示制度について概観をお示しする。食品機能に関わる表示は、保健機能食品の制度において可能となっている。保健機能食品は、特定保健用食品、栄養機能食品及び機能性表示食品の3つに分類される。機能性表示食品は企業がエビデンスや安全性について自社担保した製品の表示を消費者庁に届け出る制度であり、従来の特定保健用食品に比べると、表示範囲に柔軟性がある制度である。ただし、健常者の健康維持を目的とした表示制度であり、免疫機能についてはこれまでのところこれを直接訴求した表示の届出は受理されていない(2018年10月時点)。免疫機能は非常に複雑で、健常者における定まった評価方法や日常の健康維持との関連についてのコンセンサスがなないことも受理が難しい要因と思われる。

## 初乳の研究

哺乳類において初乳は新生個体の感染症予防に重要な役割を果たし、常乳とは異なり、免疫グロブリンなど新生個体の免疫機能を補う成分が豊富に含まれている。当社では、牛の初乳のうち、食品として提供が可能な後期初乳に着目し、感染症予防や日常の免疫機能に及ぼす研究を進めてきたので、その概要をお示しする。

## 担子菌類の研究

シイタケをはじめとする担子菌類は古くから免疫調整作用が知られ、様々な研究が進められてきた。当社は、担がん状態における、免疫機能の抑制に着目し、担子菌類摂取との関係について検証を進めてきた。その中で、シイタケ菌糸体エキスに特に、免疫機能の抑制を軽減する作用を見出し、基礎・臨床研究を蓄積してきたので、その概要をお示しする。



保健機能食品制度(引用:消費者庁制度パンフレット)